

【Vol.22】

今回は、生物多様性に関するコラムをお届けします！

「クロマダラソテツシジミ」について、大阪府立大学の環境動物昆虫学研究グループの平井規央准教授に教えていただきました。

クロマダラソテツシジミ8年ぶりに大発生

クロマダラソテツシジミは、東南アジアから南アジアに分布の中心を持つ熱帯のチョウですが、最近台湾から九州にかけて毎年発生が確認されるようになりました。堺市では2008年の秋に大発生しましたが、その後、ほとんど見られなくなっていました。2016年の秋には約8年ぶりに大阪周辺の広範囲で発生し、堺市内でもいたるところで幼虫や成虫が見つかりました。幼虫はソテツの新芽を食べてぼろぼろにしてしまうので、社寺などでは防除が行われているところもあります。今のところ本州では一時的に発生するのみで、越冬できないと考えられています。2017年にも見つかるかどうか注目されます。

ソテツにとってやっかいな虫ですね。

今後も、定期的に生物多様性に関するコラムを配信していきます！

メルマガのバックナンバーが気になる方は、

<http://www.sakai-ikimono.jp/mailmagazine>

をご覧ください。

また、堺いきもの遺産第5号を認定しましたので

<http://www.sakai-ikimono.jp/news/detail/1708231536>

もご覧ください。